

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(夜間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	機械工学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	平井 三友	実務経験と その関連資格	大阪府立大学工業高等専門学校教授として令和2年3月まで勤務。			
《授業科目における学習内容》						
機械工学の基礎となる機械力学、材料力学、熱力学について解説し、演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
中間試験と期末試験を行う。その評価点:70% 出席評価20%。小テストなどによる平常評価10%。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:最新 臨床工学講座 医用機械工学(医歯薬出版) 参考書:機械工学概論(コロナ社) 授業参考となるプリントを配布する。						
《授業外における学習方法》						
教科書や配布プリントを事前に読んでおくこと。 授業で行った演習を復習として解きなおしておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる力学をまず解説します。機械工学の基礎を理解することは、機器の利用や管理で役に立ちます。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	単位および質量体の重さの考え方を説明できる。(機械力学)		教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを 読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	単位系、次元解析、力、質量について学ぶ。				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	物体にかかる力の考え方を説明できる。(機械力学)		教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを 読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	合成と分解、モーメント、力の釣合いについて学ぶ。				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	物体の運動の考え方を説明できる。(機械力学)		教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを 読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	摩擦、運動の法則、運動量、慣性力について学ぶ。				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	物体の運動の考え方を説明できる。(機械力学)		教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを 読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	等速直線運動、等加速度運動、遠心力について学ぶ。				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	物体の運動の考え方を説明できる。(機械力学)		教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを 読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	運動の法則、運動量、エネルギーについて学ぶ。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	物体の振動の考え方を説明できる。(機械力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	自由振動、粘性減衰振動、強制振動について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	材料にかかる力と変位の関係を説明できる。(材料力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	外力と変位、圧縮、引張、応力、ひずみについて学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	応力とひずみの関係を説明できる。(材料力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	せん断、応力、ひずみ、材料の性質について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	フックの法則とその他の応力が説明できる。(材料力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	フックの法則、曲げ、ねじり、熱応力について学ぶ。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	様々な応力状態を説明できる。(材料力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	応力集中、疲れ、クリープ、衝撃について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	熱量の基本が説明できる。(熱力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	温度、熱量、比熱、熱力学の法則について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	仕事とエネルギーの関係が説明できる。(熱力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	熱量、仕事、内部エネルギーについて学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	気体のエネルギーが説明できる。(熱力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	ボイルシャルルの法則、気体の状態変化について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	熱機関と伝熱工学が説明できる。(熱力学)	教科書 配布プリント	教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	サイクル、伝熱工学について学ぶ。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	各力学の演習が解ける。		教科書と配布プリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	総合演習を行ない、講義内容の理解度を測る。		